3月14日号　第2573号　2002年(平成14年)
(昭和24年5月10日　第三種郵便物認可)
発行所　財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地 5－3－1
電話 03－3542－3678～9
FAX 03－3541－9085
(毎週木曜日発行)
購読料　月極610円　送料共

海上保安新聞

黒松 千福
株式会社 三宅本店〈広島・呉〉

「不審船事件」で長官表彰
4巡視船の64人　初の記念プレート授与

長官表彰を受ける石丸昭「いなさ」船長

奄美大島北西で昨年十二月二十二日発生した不審船事件に対応した職員に対する長官表彰授与式が三月十一日午前、鹿児島市谷山港停泊中の巡視船「おおすみ」船上で行われた。

出席予定だった縄野克彦長官が国会審議の都合で欠席、友永幸譲警救監から十管本部九州南西海域不審船対策本部の横山鐵男本部長と現場で不審船に対応した巡視船「みずき」（福岡）「いなさ」（長崎）「きりしま」（串木野）「あまみ」（名瀬）の四船長と乗組員の計六四人に対し表彰状が授与された。また、四巡視船には副賞として楯に加え長官表彰記念プレートが与えられた。

このプレートは功績が特に高いとの評価を記念して与えられたもので、今回が初めて。デザインは庁旗と同じ海色の地にシンボルのコンパス、周りに海上保安業務を象徴する救命浮環を配している。縦四二㌢、横三〇㌢の金属製で、船橋の右舷外板に取り付けられる。表彰授与式後に「いなさ」船上で設置・披露式が行われた。

さらに、不審船追跡から正当防衛射撃までを的確に捉えたリアルな映像をマスメディアに提供した十人に対し海上保安映像年間MVP賞（総務部長賞）も授与された。（MVP賞関連記事は2面に）

不審船事件の現場では、長官表彰の四隻が対応、「いなさ」「みずき」が停船させるため威嚇射撃したのに対し、不審船から反撃があり、「あまみ」「きりしま」「いなさ」が被弾。「あまみ」の金城良武航海長ら三人が負傷。「いなさ」の正当防衛による反撃で不審船は沈没した。

後に不審船からロケット砲が発射されたことが分かった。

十管本部が二月二十五日から三月一日まで超音波探査装置・サイドスキャンソナーと自航式水中カメラ（ROV）で調査、不審船沈没付近の海底で不審船を確認した。

東南ア海賊取締り　解役巡視艇を供与
海上保安庁　専門家会合で提案
インドネシア治安当局と合同訓練

海上保安庁は、東南アジアで発生している海賊対策として現地の取締り勢力の強化を図るため、解役巡視艇を供与することにし、三月五日から七日までインドネシアのジャカルタで開かれたアジア地域の海賊対策専門家会合で須之内康幸次長が提案した。平成十二年四月に東京で開かれた海賊対策国際会議以降の検討結果で、海上保安庁は実現に向け、具体的作業を進めている。

供与される解役艇は18㍍型。従来の設標船と同様、日本財団に払い下げられ、同財団が整備し、希望する海上警備機関に渡される。

専門家会合は十二年十一月のマレーシア会合に続いての二回目。各国の海賊対策が報告され、実際の海賊事件を基に検討、海賊対策情報交換を促進することで一致、地域協定についても協議された。マレーシアから情報ネットワークセンター構築の提案があった。

会合にはアジア地域の一四カ国・地域とオブザーバーのIMB（国際商業会議所国際海事局）が参加。日本から海上保安庁の須之内次長、門野秀行・国際刑事課長ら六人のほか、オブザーバーとして日本財団と㈳日本海難防止協会も参加した。

合同訓練には「やしま」が参加

期間中の六日にはジャカルタ沖で海賊発生を想定したインドネシア治安当局と海上保安庁との合同訓練が行われた。

ヘリ二機搭載型巡視船「やしま」（横浜）と、インドネシア海運総局、海上航空警察のヘリ一機、巡視船など七隻が参加して行われた。

インドネシア領海内で外国貨物船が海賊に襲われ、乗組員二人が海中転落したとの想定。海上航空警察のヘリコプターとゴムボートが二人を救助。海賊に占拠された被害船が公海へ逃走。インドネシア当局の要請で付近航行中の「やしま」が捜索に協力して位置を知らせ、インドネシア二機関が被害船を停船・鎮圧、捕捉した。「やしま」搭載ヘリは追跡中に海中転落した捜査官を吊り上げ救助した。

海賊船対策での海上保安庁と関係国との連携訓練はインド、マレーシア、フィリピン、タイに次いで五回目。インドネシアとは初めてだが、連携はスムーズに行われ、両国の協力関係が前進した。

「やしま」の派遣は、東南アジアでの海賊問題対応への十三年度巡視船派遣の締めくくり。東南アジア周辺海域での海賊情報の収集と航行中の日本関係船舶との訓練、安全確認、パトロールも行われた。

「やしま」（右下）搭載ヘリとインドネシアのヘリが参加しての救助訓練

日本周辺の海図　世界測地系に統一
4月から

海上保安庁は、約六〇〇版刊行している日本周辺海域の海図を四月からすべて世界測地系海図に統一し、日本測地系海図は廃版する。海図の統一により船舶運航者は世界中で同じ基準による海図を使うことになり、GPS（全世界的測位システム）の測地系を使う場合も測地系＝ことば参照＝ごとに設定を変更しなければならないわずらわしさから解放される。

日本の経緯度に関する測量と水路測量の基準を世界標準の世界測地系に変えるための「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」が昨年六月に成立、今年四月一日から施行される。これにより領海の直線基線の基点、航路、港の区域などが世界測地系で表されることになる。

IHO（国際水路機関）によると、海図には世界中で一〇七種類の測地系が使われている。日本では、明治初期に旧海軍水路部が東京・麻布で行った天文観測によって日本経緯度原点が定められ、この原点を基にした三角測量によって国内に三角点網が整備され、三角点を基準とした経緯度が日本測地系となっていた。

日本測地系は一八四一年にドイツの天文学者ベッセルが算出した地球の大きさと形（ベッセル楕円体）を使っているが、ベッセル楕円体は実際の地球の大きさよりもかなり小さいため、原点から離れるにつれ楕円体が地表からずれ、日本周辺で四〇〇～五〇〇㍍のズレがあった。

世界測地系は、人工衛星のデータ解析などにより求められており、実際の地球の大きさ・形に近い。

船舶運航者は測地系の異なる海図を使用する都度、測地系ごとに設定を変更しなければならなかった。このため、海上保安庁は、昭和六十二年から日本測地系と世界測地系とのズレを海図に書き込んでいた。平成十二年四月から四年計画で世界測地系海図を刊行してきたが、今年三月末までに作業を完了する。

灯台の光度、光達距離も変更

海図の変更に併せ、航路標識の光度と光達距離を従来の性能値から人の目に感ずる実効値に変更する。国際航路標識協会の要求に応じ国際基準に合わせるもので、ほとんどの航路標識で光度と光達距離は現在値より小さくなるが、実際の見え方は変わらない。

（九管総務課　古木良一）

ことば　日本測地系と世界測地系

測地系とは地表にかぶせる経緯度の網目のこと。歴史的経緯から各国が準拠する地球の原点に違いがあり、測地系が異なると地球上の同じ点でも緯度・経度が異なる。

日本では旧海軍水路部が行った天文観測などによって日本経緯度原点が定められ、これに基づいた経緯度を日本測地系と呼び、国内のあらゆる位置情報の基準となっている。

全世界で人工衛星などの観測によって決めたのが世界測地系。準拠する中心は地球の中心と一致する。

この記事は広報実務指導者研修の研修生が取材したものです

# 週間海難情報
3月4日(月)～3月10日(日)

三月十日午前八時半ごろ、プレジャーボート・そうだ丸（五・四㌧、乗組員四人）から「愛知県衣浦西防波堤灯台の南方約五・七㌔で強風・潮流のためノリ網に乗り揚げた」と118番で救助要請があった。

衣浦保安署巡視艇「きぬかぜ」が午前九時十分ごろ現場に着いて引き出し、そうだ丸は自力で衣浦港に入港した。ノリ網に被害はなかった。

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は三隻、九人だった。

種類別	隻数
衝突	23
乗り揚げ	7
転覆	1
火災	1
爆発	0
浸水	0
機関故障	2
推進器故障	1
舵故障	0
行方不明	0
その他	1
計	36

逆流

▼奄美大島沖の不審船事件に対応した職員に対し長官表彰が授与された。不審船追跡から正当防衛射撃までの映像を撮影した職員十人に対する映像MVP賞も同時に授与された。この映像は、武装した不審船が日本周辺に出没している現状を国民に認識させ、大きな衝撃を与えた▼一連の映像は、海上保安庁が無線、マイク、国際旗などによって適正に停船を命じた上、威嚇射撃し、不審船が反撃したすさまじさを浮かび上がらせた。特に「あまみ」被弾を撮影した平江主計士は船橋船尾側に身を隠して安全を確保、左手にカメラを置いて液晶モニターをのぞきながら冷静に撮影した▼一枚の映像は百万言費やすより、説得力がある。不審船発生の当初、マスコミには「なぜ、救助できなかったのか」「見殺しにしたのか」との批判報道があった。巡視船の生々しい被弾状況とロケット砲発射の映像を公開すると、批判は影をひそめた。ナホトカ号事故でもそうだったが、こうした映像をもっと早く提供できなかったのだろうか。